

# PV-Net News

第2号  
Dec. 2003

PV-Net News 第2号 2003年12月15日発行 ※記事および写真等の無断転載を禁じます。 ※記事・広告等のお問合せ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL 03-3221-3370  
■発行・編集人：都筑 建 ■発行所：太陽光発電所ネットワーク 〒101-0061 千代田区三崎町2-15-5 三崎町SSビル6階 ■印刷：(有)プロート ■レイアウト：八木澤晴子  
■編集協力：(株)NOBOX [www.greenenergy.jp](http://www.greenenergy.jp) インターネットでも情報をご覧いただけます。  
※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationと言います。  
太陽光発電所ネットワークの英文名称 Photovoltaic(=PV) owner's-Network, Japan を省略して、この会の略称を「PV-Net」としています。



## より有意義で和やかな ネットワークづくりをめざして

太陽光発電所ネットワーク  
副代表理事 ● 飯田和子

PV-Net が発足して約半年、会員のみなさんによる地域での活動もますます活発になってまいりました。会を支援し、理事会を刺激してくださっていることを大変心強く思っています。

PVを設置することにより期待されることは、化石燃料や原子力に頼らない未来です。言い換えれば、私たちが直面している最も深刻な環境問題である地球温暖化の防止のために、二酸化炭素の削減を自らが実践することです。

しかし、設置はしたものの装置はう

まく働いてくれているのか、台風や地震などの事故に遭ったときはどうすればいいのか、といった不安はつきものです。そこでPV-Netは今後、会員相互の親睦や情報の交換にとどまらず、パネルの「健康診断」により機器の発電状態をチェックする事業、事故などにPV-Netとして対応できる事業など、実利の面においてもみなさんの期待に応えるものになりたいと考えています。

会員が多くなればなるほど社会に及ぼす影響力が増していきます。関係各位の

ご協力を仰ぎながら、さらにネットワークの環を大きくしていきましょう。

わが家のPV設置の経緯は、私が発案して夫に納得してもらおうというものでした。みなさんのご家庭はどうだったでしょうか。わが家とは反対に、ご主人が発案し、奥様を説得したというご家庭もおありでしょう。お金が嵩むことなので、家庭内での「意思の統一」は必須ですね。そうして家庭で環境問題に取り組むことは、お子さんの環境教育にすばらしい効果を発揮することでしょう。

そういった観点から、ご夫婦同伴で、将来的にはお子さんも一緒にご家族みなさんで参加できるような和やかなネットワークに育てていきたいと願っております。

## CONTENTS

1	巻頭言 飯田和子PV-Net 副代表理事 ニューストピックス 太陽光発電所長大集合イベントを開催 会員数が大幅に増加!
3	特集 世界初、大集合イベント開催特集 第1部・ユニーク太陽光発電所探し
4	第2部・基礎講座【第1回】の報告
6	第3部・PV健康診断
8	新連載・トラブル改善の取り組み①
9	新連載・PVに関するお役立ち情報①
10	新連載・太陽光発電がよくわかる とっておきの講座【STEP1】
11	各地の発電量データと太陽光発電所マップ
12	会員の広場
14	活動報告―地域のうごき
16	活動報告―理事会・各種委員会
18	事務局からのお知らせ 事務局日誌
COLUMN コラム	
15	リーフレットの配付体験記

## NEWS TOPICS

### 12月20日(土)、太陽光発電所長大集合イベントを開催 「輝け! 太陽光発電所長 ~日本の未来は我らが変わる~」

日本全国の太陽光発電所長集まれ! 来る12月20日(土)永田町・星陵会館(東京都千代田区)にて太陽光発電所長大集合イベントを開催します。9都県で開催してきた地域の交流イベント「PV-Netフォーラム」の関東版ともいえる、各地の太陽光発電所長が一同に集う日本発、世界初の大イベントです。当日のプログラム(予定)とその内容をご紹介します。

#### ■ユニークPV事例発表、表彰

設置のいざこざを愛の力で乗り切った、隣にビルがあるのに設置など、各地のPV-Netフォーラムで選ばれたユニークな設置事例をご紹介します。当日は参加者のみなさんが審査員です。発表者にはユニークなプレゼントを贈呈します。

#### ■マップ集大成の発表

私の地域、近所にはどれくらい発電所があるのかな。9都県でつくり上げた太陽光発電所マップを発表します。

#### ■講演

「太陽のはなし」講師:日江井榮二郎国立天文台名誉教授(正会員)

NEWS TOPICS

■ 太陽光発電基礎講座の卒業式およびQ&Aの発表

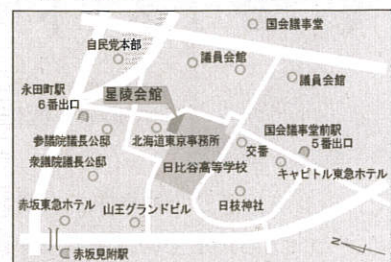
9月から3カ月にわたり開催した全3回の太陽光発電基礎講座(P.4~5に詳細を掲載)の必修講座に参加された方々の卒業式を行います。PV-Netより「太陽光発電基礎講座」修了証を授与し、3回目で受講者のみなさんがつくり上げた「太陽光発電のよくある質問・疑問」に対する回答例をプロジェクトで映し出します。卒業生のみなさん、ぜひお越しください。

■ PV健康診断

「お宅のPVは健康に働いていますか?」(P.6~7に詳細を掲載)各地で行っているPV健康診断の事例紹介と地域内でのデータ比較をまとめ、パネルごとの特徴、地域の傾向などを発表します。PV健康診断をご希望の方は事務局までご連絡ください。事前に専用の記入シートを提出して下さった方に20日当日診断結果をお渡しいたします。もちろん無料。(PV-Netホームページにも詳細と記入

シートを掲載しています。http://www.2.greenenergy.jp/guide/kenshin.htm)ひとりでも多くの方とこの大集合イベントをつくり上げていきたいと思っています。ぜひご参加ください。

日程：12月20日(土)  
13:30から17:30(開場13:00)  
会場：星陵会館ホール  
東京都千代田区永田町2-16-2  
アクセス：営団地下鉄「永田町」駅6番出口 徒歩3分、「溜池山王」駅「国会議事堂前」駅5番出口 徒歩5分、「赤坂見附」駅徒歩7分



各地のデータ	イベントなど	PV基礎講座
9~11月 ・毎月の発電量の登録 ・PVカルテ登録	・各地でフォーラムを開催 ・ホームページ ・会報創刊号発行 ・会報2号発行 全体イベント 20日(土)	3回連続講座(月1回)
12月	・会報3号発行 第2回総会、記念シンポジウム	補講~第1回講義~(10日)
1~4月	各地の太陽光発電所見学会	
5月		

みなさんの普及広報活動により、会員数が大幅に増加!

12月1日現在、会員数が779名に達しています。10月末時点から、約1カ月で200名以上の増加です。このうれしい悲鳴は、10月末にボランティアを募集して行った「発送作業大作戦!」から始まりました。

この作戦は、昨年7月に実施した会の立ち上げに関するアンケート調査の際に、「参加したい」もしくは「情報を希望」と回答され、現在まだ会員になられていない約5,500名の方に会のリーフレット、第2回PV-Netフォーラムのお知らせなどの資料を送付するというものです。大規模な広報活動は、多くの方にアピールできる活動を提供できるようになってからが良いと考え、各地の第2回「PV-Netフォーラム」の開始を控えた10月末、満を持して発送作業を開始しました。

発送翌日から1人、2人と入会申込

書が届くようになり、1日に10人前後の入会届を受け取る日も珍しくありません。この会報がみなさまのお手元に届く頃には、900名にせまっていることでしょう(事務局長談)。反響の大きさに驚かされるとともに、設置者同士のつながりを持ちたい、情報交換がしたい、会を通して思いを伝えたいなどの発電所長としてのみなさんの思いの強さを改めて感じます。

会員数の増加、設置者同士の団結は、機器ユーザーとしての要望、発電所長としての思いを社会で具現化していくための基礎であり、保険制度などの互

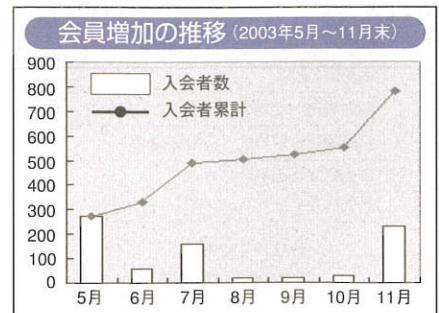
月	入会者数**	会員数累計	主な広報活動
5月	273名	273名	設立総会
6月	59名	332名	
7月	156名	488名	会の発足のお知らせと設立総会の報告、入会のご案内を各地の地域交流会(4~5月開催)参加者へ送付
8月	17名	505名	
9月	19名	524名	各地でPV-Netフォーラム開催、各地でポストイン活動開始 未会員5,500名へリーフレットおよび第2回PV-Netフォーラムのお知らせを送付(10月末)
10月	27名	551名	
11月	228名	779名	各地で「第2回PV-Netフォーラム」を開催

※ 会員数は2003年12月1日現在  
※ 年会費ご入金を確認をもって「入会月」としています。  
10月末の発送作業をお手伝い下さったみなさん、本当にありがとうございました。

助制度創設に向けての足がかりにもなります。会員数に比例してみなさんに還元されるメリットは増大します。

会員数の急激な増加を語るときに忘れてならないのは、各地の会員の方による「ポストイン」活動です(P.15に体験談を掲載)。散歩がてら目にとまったパネル設置宅のポストに、会の存在を知ってもらうため、リーフレットを投函する活動です。みなさんのやり方は様々ですが、楽しみながら自分たちの仲間を自分たちで増やしています。

このような活動の芽は、会員数の増加となって育ち、会の実力として大きく実ることでしょう。すでにその成果はじわじわと現れてきています。設置者自身の手で発電所長同士の輪を広げ、名実共に力をつけて太陽光発電などの自然エネルギーが主役の社会に変わるのが望まれます。



特集 世界初、大集合イベント開催特集 輝け!太陽光発電所長

いよいよ太陽光発電所長大集合イベントの開催が近づいてきました。動き始めたPV-Netの活動がぎゅっと凝縮した今年の集大成です。キーワードは「顔の見える交流と基盤づくり」。今まで手探りで発電を続けてきた発電所長や太陽光発電に関心を持つ者同士のつながりが生まれ、市民の立場からの公正な情報・基礎知識の共有、その裏づけとなる発電実態データの蓄積が始まっています。これらは従来の市民活動にみられなかった力強い活動の基盤となります。各地のPV-Netフォーラムや太陽光発電基礎講座、PV健康診断を通して、みなさんと一緒にそれを具体化してきました。

12月20日の大集合イベントに向けた特集記事として、第1部では、顔の見える交流の最たるもの、地域のフォーラムで見つかった太陽光発電にまつわるユニークなエピソードを、第2部では「太陽光発電基礎講座」第1回の講義をダイジェストで紹介。第3部ではPV健康診断の体験談を楽しんでください。

第1部 ユニーク太陽光発電所探し

9地域で行ったPV-Netフォーラムでは、発電所長ならではのぼやき、つぶやき、楽しみが盛りだくさんでした。12月20日には、ほかでは聞けない身につまされる話やためになる体験談、気の合う発電所長仲間と出会えます。

「待機電力を捜せ! 大作戦」 ~子どもと身につけた節電習慣~

「できることから」と、不燃ごみ分別を始め、節電を始めて……という具合に太陽光発電を始めています。おとしの11月に設置して、去年の10月までは非常にこまめなデータを取りました。わが家では、朝7時頃には全員が出てしまい、4人が帰る頃にはほとんど暗くなっています。この間、待機電力を計算してみようと思い、いないところを狙って休日を除いたデータを集計してみました。1日の発電量と売電メーター表示を見ると、昼間の消費が出てきます。つまり、わが家の待機電力です。

富士吉田市は寒いので、12月20日前後から凍結防止機を、風呂場に3個、台所に1個つけます。その差も見たいと思い、凍結防止機をつけている2月12~28日のデータと、はずしてから3月20~31日のデータを記録集計してみました。すると、凍結防止機をつけている間が0.37kW/日、はずした間が0.26kW/日。この差が、凍結防止機の待機電力です。家を出るときはほとんどの不必要なコンセントを抜くような習慣を子どもと身につけておられます。働いているのはビデオのタイマーくらいで……。

(山梨県富士吉田市 水越文孝さん談)

今も鼻高! ~東電社長と交わした熊(クマ)電 一東電契約「逆潮流あり」~

1994年5月に那須のほうに山小屋をつくったものですから、模範解答ではございませんが、こんなことを早い時代にやりましたということでお話いたします。東電の栃木支店と、94年6月に契約しました。「熊(クマ)電」なんて名前をつけまして、ちっちゃな、1.1kWの容量で、その頃にはおもしろい「逆潮流あり」なんていう言葉で契約しています。

今だと支店長クラスの方と契約するのではないかと思います。この時代は荒木浩東京電力社長(当時)との直接契約なんです。東電へ行きまして契約書を見ますとズーッと長い契約文がございまして……。那須のほうで契約した、というのが珍しいのではないかと思います。全部アモルファスで、その頃はまだ国からの補助もございませんでしたから、自分でやりました。けれども、1.1kWでも東電の社長さんがわざわざ契約してくれたというのは、私はずいぶん鼻高にしております。

(埼玉県志木市 熊谷 晃さん談)

「やっぱり、愛ですかねえ……」 ~愛で乗り越えたパネル設置と 寄せ棟をめぐる攻防~

私は太陽光発電というのをかなり前から気になっていて、ずーっと載せたいと思っていました。1999年の7月に新築しまして、そのときに主人に「発電に向く切妻屋根が良くて南に載せたい」と申しましたら、「おれは絶対にいやだ、見栄えの良い寄せ棟がいい」と意見が割れてしまいました。太陽光発電システムを載せるという条件をのんでもらったものですから、屋根は寄せ棟になって、3方向に分かれてしまったんです。切妻のほうが発電量がいいとは思っていたのですが、私の希望をきいてくれたので、主人のほうの「見た目にこだわりたい」という希望も入れないと夫婦がうまくいかないと思いましたので……。

3.26kWですけど、8枚ずつ、東、南、西について、24枚載っています。売電量のお知らせも主人の名前で来るのですが、まったく興味がなかったのでこの会からのお知らせは私の名前に変えてくださいとお願いしてしまいました。(あきらめずにどんなふう乗り越えたのですか?との会場の問いに)

(群馬県勢多郡新里村 羽広勝美さん談)



あなたのエピソードを教えてください!

設置前や設置の際、設置後などに遭遇した、発電所長さんのあんなこと、こんなこと、思いがけず直面して困った機器トラブルなどなど、設置者ならではの「悲喜こもごも」を持ち寄ってませんか? 次はあなたの番です。フツウの太陽光発電所長さんのお話の中にこそ、ドラマがあるのです。みなさんからのご投稿を、お待ちしております!

第2部

# 太陽光発電基礎講座 〔第1回〕開催報告

第1回の講義は、100名近くもの多くの受講者が熱心に聞き入るなか、おふたりの講師の先生に貴重なお話をいただきました。抜粋してご紹介します。

※12月20日の大集合イベントでは、全3回の講座の成果として参加者自身がつくりあげる「よくある質問」を発表します。どうぞ楽しみに！

開催日時：9月13日（土） 13：30開始（開場13：00）  
開催場所：新宿御苑 インフォメーションセンター2F レクチャールーム  
参加人数：94名

講義1

## 太陽光発電一般について

【講師：大谷 謙仁氏（産業技術総合研究所）】

### ■ 太陽光発電の未来

100年後のエネルギー供給体制はどうなっているのでしょうか？ ドイツの地球変動諮問会議（WBGU）では、3分の2が太陽光（熱）発電になるだろう、むしろそれしかないだろうと提言しています。かつて、シェルという大手石油会社は、2050年に再生可能エネルギーが1次エネルギー全体の約半分を供給し、太陽光発電がかなりの割合を占めるというシナリオを出し、我々関係者の間で驚きをもって受け止められましたが、それよりもさらに長期的かつ革新的なシナリオがつけられたのです。

### ■ 太陽光発電普及のシナリオ

1992年頃、ドイツでは系統連系システムに対して連邦政府と州政府で3分の2を補助する「1000ルーフ計画」というプロジェクトがありました。しかしこれはうまく価格が下がらず4～5年で終わっています。日本はドイツの轍を踏まず、うまく太陽光発電が普及していった成功事例です。

しかし、ドイツはその後の普及のシナリオをうまく練ることができた点では成功しているといえます。現在ドイツ政府は、電力の買い取り料金に対し、1キロワット時当たり0.46ユーロ（日本円で約60円）の補助をしています。電力会社に任せないで、20年間政府が買い上げを約束する施策です。

ただ、国際会議に行くと、日本の新エネルギー財団（NEF）の補助のように——今12%ですが——設置に対する投資額に補助する日本の方式と、電気のある一定の年数、政府が買い続ける方式と、どちらが良いのかという論争がまだにあります。

### ■ 太陽電池の種類

太陽電池の種類は材料で分類するとシリコン系（結晶・非結晶）のものや化合物半導体を使ったものがあり、『PV NEWS』（2003年5月、米PV Energy Systems発行）の統計ではシリコン系が99%を占めています。

結晶シリコン系には多結晶と単結晶があり、多結晶はいろんな結晶模様が表に出ているまだら模様で、形が四角く一番大きいのが特徴です。単結晶に比べ効率は若干低めといわれますが、単結晶は円のをカットして擬似四角形をつくって隙間ができてしまうため、面積率の関係で変換効率はほとんど変わらなくなります。変換効率が高く、品質が長期的に安定しているので日本企業、世界企業とも力を入れています。

非結晶シリコン系のアモルファスは、薄膜で材料が少なくすみ、加えて形状を曲げられるモジュールがつけられるなど色々な特色を持って期待されていましたが、設置面積が大きくなるためなかなか伸びていません。

### ■ よくある質問と誤解

「太陽電池をつくるのに必要な電気を20年たっても回収できなかつたら、それは地球環境に貢献していないのでは？」という質問はよくありますが、エネルギーの償却期間が比較的短いのが太陽光発電の特徴です。だいたい2年前後と計算されていますので心配は無用です。誤解しやすいのはコストの償却期間です。コストのほうは20～30年と、エネルギーと比較にならない長さ



↑熱心に講義に聞き入る参加者

です。みなさんは地球にお金を預けているのです。

次に発電量に対する質問で、その不満を聞くことが多いのですが、実際に機器トラブルが原因である場合もありますが、誤解である場合も多くあります。まず高層ビル、樹木、電線、アンテナなどの影、そして気象変動が影響しているケースがあります。例えば東京では年間5%、標準データで15%ぐらい気象変動があります。ですから昨年と今年の発電量が30%ぐらい違って、当たり前ということになります。「セールスマンに元が取れると言われたけどこのままじゃ……」と不安になったときでも、1年待ってから判断しても遅くないでしょう。またパワーコンディショナー（PC）が起因しているケースもよくあります。頻繁に停止してしまい、しかもエラー表示が出ても気づかないことがあります。その場合はメーカーに相談したほうが良いでしょう。

また、装置自体の特性と信頼性を知ること大切です。例えば3面設置のお宅は方位によって発電出力に差があります。最近では2面3面設置されているお宅が多いので、5%ぐらい発電出力が下がっているとみても問題はないでしょう。系統電圧が地域的に高いと、太陽光発電から系統へ流れる電力が抑制されてしまう現象もあります。この場合は電力会社との協議で調整して何とか直すという解決策が考えられます。今後こういった問題がもっと顕在化してくるかと思えます。

### ■ 日本が、我々ができること

様々な問題をクリアーするために、我々は、（独）新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）から委託を受け、太陽光発電大量導入実現のための総合支援の技術研究

を行っています。太陽電池工場のライフサイクル、利用者からの信頼獲得、リサイクルやリユースといった技術も視野に入れています。住宅の太陽光発電システムをモニタリングすることを基本とし、そこからデータを吸い上げて、最適設計、運用支援技術開発を実施しています。www.pvsystem.netというHPを出していますのでどうぞご覧ください。設計支援技術のWEB化や

PVシステムの広域リアルタイムモニタリング、ケータイ日射計、事例データベースなどを展開しています。

分散型の太陽光発電システム実証研究でひとつ例を挙げると、シャープはNEDOの委託を受けて、モンゴルの病院と学校に太陽光発電システムを設置しました。これまで学校ではパソコンや工作機械などを利用する勉強はできなかったのですが、昼間も

電気が使えるようになったことで彼らの技術力が伸びていくことが期待されます。世界最大の太陽光発電普及国である日本は、このようにオリジナルな提案をどんどんやらなければならないと考えています。太陽光発電の応用範囲はとて広く、小さくも大きくも、様々な利用できますので、世界を先導するガイドとしてみなさんの出番に期待しています。

講義2

## 太陽光発電の施工について

【講師：外谷 富二男氏（ワーカーズコープ エコテック）】

### ■ 太陽光発電システムの特徴

太陽光発電の性能を表す指標として、太陽光パネルの出力表示があります。カタログでは定格出力と表現されています。JISで定められた出力表示条件とは、モジュール表面の温度が25℃のとき、エアマス1.5で1㎡当たり1000Wの太陽光を照射したとき、何ワット発電しますかということなのです。発電効率は気温が1℃上がると0.4%低下します。真夏の屋根の上は70～80℃になっていますから50℃でも違っていたら効率は20%も下がってしまいます。問題はこういうことが最初に説明されているかどうかです。

我々が見える光と、太陽光パネルの反応する光とは領域が違います。アモルファスシリコンの反応する領域と人間の可視光領域とはダブりますが、市場を9割占める結晶系シリコン（多結晶、単結晶）は可視光領域の外側、赤外領域の光に反応します。目で感じる明るさと出力は必ずしも比例しないということも知っておく必要があります。

パネルの変換効率がすべてであるという、ちょっと神話じみた傾向も問題です。例えば3kWシステムはパネルの変換効率が高かろうと低かろうと3kW出るので。効率が低いものはそれだけ設置面積が少なくすむということにすぎません。メーカーが変換効率の良さばかり強調するのは、ユーザを過度に刺激し、必ずしもその選択によい影響を与えるものではないと思います。入ってきた光を結晶系シリコンが電気に変えられる理論限界効率は30%。現在の変換効率は17.5%。せいぜいあと数%上がる程度でしょう。ですから、「効率がものすごく上が

る3年くらい後に付ける」という選択が果たして正しいかどうか……。

パワーコンディショナー（PC）にも変換効率が異なります。最大94.5%、最小90.5%。パネルだけではなくシステム全体として考えることが重要でしょう。

### ■ システムの設置

おそらくあまり知られていないと思いますが、システムを設置できない場所も多くあります。強風地帯、豪雪地帯、海岸地域、高所、1m以上の積雪があるところには設置は不可です。厳密に言うと、設置はしても保障はしないということになります。京セラに追随して2000年度に各メーカーが「10年保障」を導入し、設置条件や制限がかなりうるさくなりました。例えば屋根の使用面積に制限が設けられ、屋根の内側10分の1を空けなければなりません。しかし、実際にその設置条件を守ると取り付けられないことが多いのです。

パネルを何枚一組にするかというストリング（直列数）もメーカーによって違います。サンヨーは3枚か4枚、あるいは5枚を一組にしなければいけない。そうすると2面につける場合は1枚でつけることはできません。ストリングは同一面に倍数設置していかないといけないのです。

最近メーカーは、ストリングコンバータや昇圧ユニットをかませ、PCの入力電圧を昇圧させてからPCに入れるやり方で「どんな面積でもつきますよ」と言うのですが、ここに落とし穴があって、実はコンバータや昇圧ユニットを中に入れるとシステム効率が下がります。その説明をしないで何

枚でもつきますと言うと、いろいろな不具合が出てきます。適切な組み合わせ通りに設置していないと、かけたお金の回収に余計な時間がかかることになります。

### ■ 施工の問題

屋根には様々な形状があり、既築、新築の場合で取り付け工程が変わるものもあります。その注意点をいくつか挙げます。

【金属板瓦葺き】新築の場合は建築設計の方へ「耳なし芯木入り」という葺き方を指定します。それでないと取り付けられません。垂木にきちんと金具がついていれば屋根が飛んでいかない限りパネルだけ飛んでいくことは絶対にありません。「耳あり芯木なし」の既築の場合、メーカーは推奨していませんが「耳あり芯木なし雪留め金具」でも固定できます。

【瓦屋根】今はだいたい瓦を剥がして取り付けるので、瓦に穴が開くことはありません。

【スレート】新築の場合はスレートをつける前に金具を埋め込んでおく穴を開ける必要はありませんが、既築の場合はどうしても穴を開けるようになり、コーキング（防水加工）が必要となります。

【陸屋根】架台を組んでつけないといけません。一般的に新築の場合は30度くらいにつけますが、既築の場合は風の抵抗を少なくするために最大で20度ぐらいにします。

### —— 質疑応答 ——

Q：現在PC 4.5kW、パネルが3.9kWです。増設可能ですか？ また、モジュールは同じメーカーでなくてはだめですか？

A：増設可能です。増設の概算はPC出力÷0.8が目安です。4.5kWのであれば5kWぐらいならクリアーに動きます。ただし、メーカーは同じでなければなりません。

# 第3部 PV健康診断受診ガイド

【小田原市 古峰聖治】

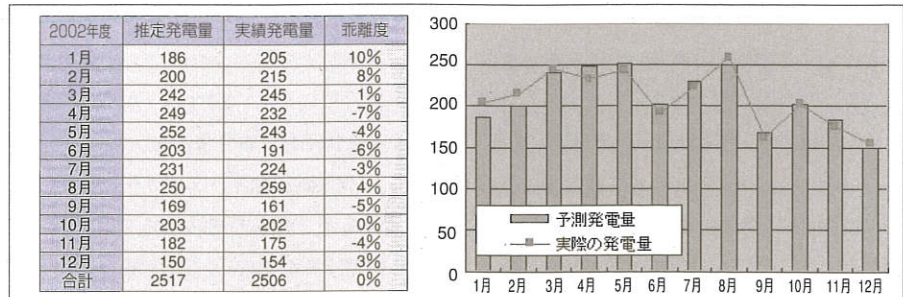
「みなさんの太陽光発電は元気に働いていますか？」この問いに答える仕組みを会員の手でつくり上げていく試みが、PV健康診断です。PV-Netでは、将来的に大きく分けて三つのことを考えています。①「健康診断用ツール(※)」を活用した発電量の推定値と実績値の比較、②会員間での相対的な比較、③経済効果、ライフスタイルの確認です。

まず第一歩として、①の試みが各地域のフォーラムで始まりました。気象データと設置条件から算出した推定値と、みなさんの実績データとの比較を乖離度で表し、機器の健康具合を診断します(図1参照)。乖離度の目安は10%程度ですが、影や風通しなど、季節ごとの様々な影響で発電所ごとに特徴を持って変化します。ですから月ごとだけでなく、年ごと、あるいは前年同月

比較などにより、みなさんの発電所の特徴を把握しながら長期的に診断していくことが重要です。実際に故障前後の過去の実績データで診断すると、不具合兆候が発見できるという結果が得られています。

次に会員間での相対的な比較ですが、2003年夏は10年ぶりの記録的な冷夏になり、不安を感じた方々も多いと思います。こんなとき、会員間での情報交換により、自分のところだけではないということに納得をされた方も多くいます。そこで、会員間のデータを相対的に比較できる指標を定め、地域ごとや設置条件ごとに比較する仕組みを次の一歩として計画しています。①、②の取り組みにより故障の早期発見に役立てたいと思います。

もちろん、太陽光発電の健康度は売電量の多さを示すことは言うまでもありません。



●図1 PV健康診断(古峰) 2002年

## PV健康診断体験レポート 1 千葉県鎌ヶ谷市・南 昌子

### ■ 毎日つけた発電記録

1994年3月22日に東京電力と買電契約を結び、今年で足掛け10年になる。最初は、動き始めた積算計のメーターを見るのがうれしくて、毎日その数字をのぞいてはメモしていた。

初めは、今日の天気だとのくらい発電してくれるのだろう、というくらいの気持ちで発電量をメモしていたのが、そのうち、天気のいい日に限ってパワーコンディショナー(PC)が不調で発電していないことに気がついた。備考欄にメモをし、設置工事をお願いした方にも連絡をしたが、月に1回か2回のことであり、アラームをリセットすれば動いていたので、そのまま様子を見ていた。しかし、翌1995年7月、と

うとう積算計の数字が動かなくなり、修理を依頼した。おかしいと思われる部分を直してもらい、とりあえず動くようにはなったものの、なぜそうなったのか、原因はわからなかった。

その後も、時々天気の良い日に発電がストップしながらも動いていたが、1997年8月、再び動かなくなってしまった。このときは、PCを取り外し持ち帰っての修理となったが、またもやはっきりした原因はわからなかったようだ。しかし、その後は順調に発電し、何のトラブルもなく10年目に入った。

### ■ PV健康診断をしてみたら

トラブルのあった期間は、春から夏にかけて発電量の多い月に乖離度が高くなり、



↑PV健康診断はデータ分析ワーキンググループ(WG)で取り組んでいます

記録された発電量、売電量、買電量から、自家の消費電力量を知り、省エネ生活や電力会社との契約内容がライフスタイルにあったものかどうかの確認などに役立つという取り組みも考えています。

こんなアプローチで、みなさんの発電所が健康で早く設備償却に近づく手助けになればと思います。まだはじめの一歩を踏み出したばかりですが、これからどんどん発展していきます。その際に一番大切なのは、みなさんの発電データです。これなしには何も始まりません。今まで記録されていなかった方も、ぜひはじめてみてください。高価な日射計等測定器がなくても、みなさんのデータがあれば健康診断が可能になります。集められたデータはみなさん自身のため、会員みんなのため、そして太陽光発電普及のために大きな力を発揮します。

毎月のデータを記録しましょう。  
※「健康診断用ツール」とは、気象データと設置状況から過去の推定発電量を算出するシミュレーションソフトです(P.8に関連記事掲載)。

発電が止まった月はそれぞれ43%、50%となっていた(図2~4参照)。このように、PV健康診断をすると、システムに何らかの異常が起きたことを発見できる。長い期間発電が止まれば別だが、毎月の発電量をきちんと記録していても、健康診断をしなければトラブルの発見は難しいのではないと思う。

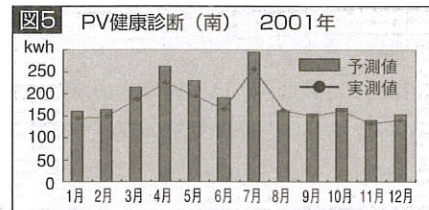
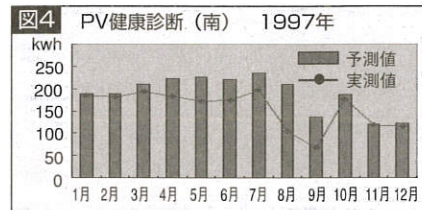
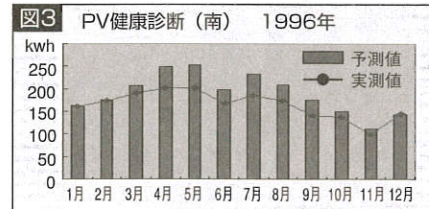
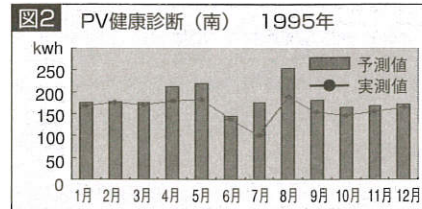
私はその後、毎日発電量を記録しながら、目立ったトラブルもなく、順調に発電していると思っていたが、自分で健康診断をしてみても、その結果に愕然とした。相変わらず発電量の多い月の乖離度が高かったのである(図5)。

### ■ 毎月1日は発電量「観測の日」

私は電気のことには疎いので、この結果を見ても何が原因かはまるでわからない。しかし、グラフを見ると春から夏にかけて

発電量の多い月の乖離度が高くなっていることがわかる。電気に詳しい人なら、こうした傾向から原因を推定することができるのではないだろうか。また、システムの調子がなんとなくおかしいと思ったとき、こうしたデータがあれば、メーカーに話がしやすくなる。

これから会員同士、データを持ち寄って健康診断をすることで、トラブルの発見だけではなく、色々なことがわかってくると思う。新たな発見に期待したい。



## PV健康診断体験レポート 2 東京都武蔵野市・河田鐵雄

### ■ 診断経過

わが家にPVがやって来たのは1999年5月、約4年半前。当時、東京電力との共同事業で自然エネルギー推進市民フォーラム(REPP)が募集していた助成をいただいて、単結晶3kWのサンヨー製を設置しました。最近、「何でそんなところでPVを始めたの?」とか「その発電成績でなぜやっているの?」という質問をよくいただきます。つまり、わが家のPVは真っ先に健康診断が必要な成績の良くないサイトなのです。気の利いた答えを思い付けず「屋根を持って引越してできないので」などと訳のわからないことを口の中で呟いて終わるのがいつもです。

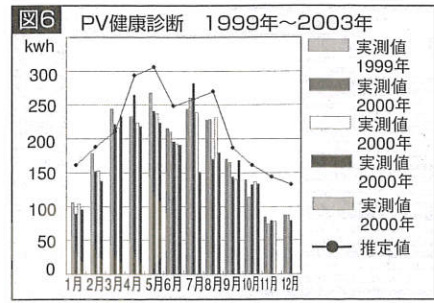
昨年、運転開始満3年を機に、それまでの実績と予測計算(Solar Clinicなど)との比較をしました。今年になって本会の「PV健康診断用ツール」による診断業務が始まりましたので、その後のデータも追加して健康診断をしてみました。

### ■ システム概要

切妻屋根に2面設置(110と290方向、傾斜角14度)各150W10枚合計3kW、5直列4並列、PC定格4kW、周囲環境としては東北側に5階建て集合住宅、南側に公園の高樹木の列があり、影の影響が大きいサイトです。

●表1 Solar Clinicと京セラソフトでの比較 (2002年実施・5年平均日射量使用)

Solar Clinic 影無予測 2,392kwh (参照点: 練馬)			
発電量	2000年 2,166kwh	乖離度	2000年 9%
	2001年 2,051kwh		2001年 14%
京セラ 影無予測 2,603kwh (参照点: 東京)			
発電量	2000年 2,166kwh	乖離度	2000年 17%
	2001年 2,051kwh		2001年 21%



### ■ 感想

1. シミュレーションとの対比はいわば総合的なシステム健康診断であり、1回だけでなく定期的に行って異常の早期発見につながるのが望ましいと感じました。

2. PV健康診断用ツールを機械的に適用するのではなく、個別に評価する必要がある特殊なサイトがあると感じました。

3. 健康診断用ツールをより使いやすく改良するために、より多くのデータを集めて本会の診断活動を活発に続けていきたいと思っています。特に今後は多面設置の場合のシミュレーション精度の向上、日陰の定量的評価の簡便化、日照データの参照点の補完など、改良の夢は広がります。

4. PC効率の向上と多面設置の損失軽減のため、方位ごとにインバータを設けられるよう小型PCが開発されるのが望ましいと感じました。

5. 現在は入力(日射量)と出力(発電量)の比較でマクロの診断をしているのですが、将来はパネルやPCなどの要素機器も設置状態で診断できる簡便な手法が開発されるのが望ましいと感じました。

### ■ おわりに

最初に触れましたが私は、「どうしてこんなことをしているの?」といった話をするのが本来は技術論より好きです。将来、会の中に、そんなことを同好の氏と語り合うサロンなどができるといいなと思っています。

●表2 年間発電量の乖離度

	影無予測	影有予測	実績値	乖離率%
1999年	1,611	1,130	1,169	3
2000年	2,863	2,064	2,170	5
2001年	2,879	2,059	2,051	0
2002年	2,863	2,056	2,011	-2
2003年	2,096	1,601	1,599	0

※6~12月 ※1~9月

トラブルが起きる前にできること

「PVカルテ」を提出しましょう！

会員のみなさん、PVカルテ（太陽光発電システムの設置概要）の提出は必須です。PVカルテとは太陽光発電システムの設置日やシステム容量など設備の基本的なデータを書き込む表（シート）のことです。

いざシステムにトラブルが発生したとき、必要な情報は何でしょうか？ どこに保管していますか？ PVカルテには設置業者の連絡先などの欄もあり、備忘録の役割も持っています。システムの故障や設置者の不安に対応するためのカルテになります。設置者一人ひとりにとって、そしてPV-Netにとっても重要な基本的データが、PVカルテには凝縮されているのです。

PV健康診断を受けましょう！

PVカルテが基本的データ集なら、PV健康診断は実践的なシステム診断の方法です。自然エネルギー推進市民フォーラムで最初に試み、産業技術総合研究所の大谷謙仁氏がソフト化した「PV健康診断ツール」によるシミュレーションは、推定発電量と実際の発電量の度合いをみるもの。シミュレーションには観測地からのズレで誤差が出ますが、近隣の太陽光発電所のデータとの比較（「近隣比較」と仮称）を併用することで、より正確なPV健康診断を行っていきます（P.6～7に関連記事掲載）。

現在多くの会員から基礎データが集まっていますが、この健康診断の過程でシステムのトラブルがいくつも発見され、その改善が始まっています。

トラブル発見！

強風で太陽光パネルが飛んだ！

本年9月、静岡県国分さんの陸屋根上のPVシステムの半分が、強風で隣の畑に飛ばされるトラブルが発生。全国的にも珍しい“事件”です。

国分さんはPV-Net発足時から静岡の世話人の一員でしたが、高齢である上に体調も崩され、事務局へ助けを求められました。緊急対応として現地調査し、国分さんの委託を受けて設置業者と話し合い、国分さんの意向に沿った解決内容となり一件落着。PV-Netトラブル対策の初仕事となりました。

1.5倍の発電量と喜んでいたので！

PV健康診断は、千葉県的美浦さんの心にある影を落としています。発電データは推定発電量より150%も多く、日頃から発電成績の良さを自慢していた美浦さん。しかしPV健康診断の結果、乖離度が異常値を示していることから再点検してみると、売電の料金はそれに伴っておらず、パワーコディショナー（PC）のトラブル続きだったことも判明しました。早速、パネル（PV）メーカーのK社に連絡を取り改善対策中です。

長〜いトラブル改善

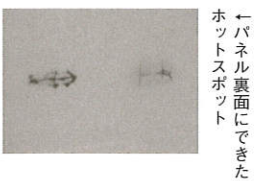
東京都の高柳さんは2年半もの長い期間をかけて改善に取り組んでいます。最初に出力低下に気が付いたのは2001年4月。設置業者の調査日は曇りで発電があったため「自己消費が多い」との診断でした。しかし、依然として出力が回復しないので自分でPCを開けると、なんと太陽光パネルからのケーブルの焼損を発見！ すぐさまPCを交換し、その後、売電が減ったなと感じつつも、忙しさに紛れてそのまま2年間が過ぎた今回、PV健康診断を受けてびっくり。なんと当初の50%しか発電していなかったのです。今度はPVメーカーのS社に直接連絡し、改善を要求。担当者が3回調査に来るも、測定器を持ってこなかったり測定し忘れてたりと、本社に頻りに連絡を取っていた割には少々お粗末な対応ぶり。その上パネルの型番が不明なため代替が手配できず、2カ月過ぎた今も出力改善を達成できない状態です。

茨城県の高橋さんも、PV健康診断で明らかにパネルが出力低下を示していることから、メーカーに改善を要求中です。

ホットスポット発見

パネル裏面に黒い斑（ホットスポット：HS）が見つかる例がみられるようになりました。山梨県の太友さんが数年前からPVメーカーのM社と共同調査し、改善させている課題です。HSは、パネルにかかる影の影響で部分的に生じるセルの温度上昇により生まれるといわれ、発電低下をもたらします。初期に設置したパネルに多いことが指摘されています。

東京都の大野さんも出力異常が気になり、所属しているCELCが中心となり（PV-Netも協力）PVメーカーのS社に調査を依頼し、アレイ間の電圧不ぞろいを発見。粘り強い調査を重ね、最後はパネル1枚1枚をはがして調査し、パネル交換を実施しました（原因解明中）。



↑パネル裏面にできたホットスポット

パネル表面に白濁発見！

千葉県の副島さんは、11月17日のPV-Netフォーラム千葉でのユニーク事例報告のため、写真を撮ろうと前日に初めて屋根に上りましたが、そのとき、パネル表面（内部）に白濁の帯を発見。早速PVメーカーへの調査依頼を準備しています。

PVメーカーとの話し合い

各地でトラブル事例が報告され、それぞれ設置業者やPVメーカーとの話し合いが始まっています。機器情報委員会では、10年保障やトラブル対応体制など業界全体に広くかかわる課題を取り上げてPVメーカー各社と、これまでに2回、話し合いの場をもちました。11月20日の会合でPV-NetのPV健康診断のデモンストレーションを披露したところ、各社の担当者は一様に驚き、その内容はメーカーにも大きなメリットがあるとして、今後の協力表明を受けました。PV-Netの存在意義を実感しています。

その1 住宅用太陽光発電システム設置のための補助制度

財団法人 新エネルギー財団 導入促進本部 太陽光発電部 新国禎侍

太陽の光を利用した太陽光発電は、クリーンな石油代替エネルギーであり、地球の環境保全から新しいエネルギーとして期待されている。

そこで国は、需要が最も期待される住宅などへの太陽光発電システムの導入を促進するため、1994年度から補助事業を

設け、新エネルギー財団を通じて設置費の一部を助成している。2003年度上期の応募申込み件数を含めると、1994年度～2003年度上期までの9.5年間で約15万件（約54万kW）の太陽光発電システムを導入することになる。

現在、2003年度下期の応募申込みを受付中であり、多数の応募申込みがあることを期待している。

以下に2003年度住宅用太陽光発電導入促進事業の概要を示す。

※本補助金は、国からの他の補助金制度と重複しての適用は受けられません。

●住宅用太陽光発電導入促進事業の概要

目的	早期に市場自立価格までコストを低減させ、将来に向かって自立的な普及を促すため、大規模な導入を図ることを目指す
補助対象	住宅の屋根等への設置に適した低圧配電線と逆潮流ありで連系し、かつ、太陽電池出力が10kW未満の太陽光発電システム
補助額	太陽電池出力1kW当たり9万円 1件当たりの上限は10kW未満
応募資格	①一般住宅用（一般用） 住宅用太陽光発電システムを設置し、電力会社と電灯契約を締結する方で、次の条件を満たしている方 ・応募申込み受理通知の年月日から2カ月以内に工事に着手できること ・既築の場合3カ月以内、新築の場合6カ月以内または平成16年3月10日のいずれか早い日までに完了できること ②一般住宅用（建売用） ・住宅用太陽光発電システム付き建売住宅等を購入する方に代わり、予約枠の申込みを行う住宅供給者 ③地方公共団体協力応募用 ・区域内で住宅用太陽光発電システム付き住宅を設置・購入する方に代わり、予約枠の申込みを行う地方公共団体
応募期間	・下期：平成15年10月1日（水）～平成16年2月20日（金）

その2 生活スタイルで大きく変わる電力契約内容 —— 岡野さんの場合

正会員 神奈川県平塚市 岡野庄太郎

【電灯料金体系】

各電力会社の電力供給量は、昼間のピーク時と早朝時の差異が夏場では2倍強にも達します。そこで、従来の従量電灯料金に各家庭の生活スタイルに合わせた新しい時間帯別料金が用意されているのです。

【時間帯別料金】

- ナイト8：①7時～23時 ②23時～翌日7時 の2つの時間帯料金に大別（夜中の8時間は、割安な単価を設定）
- ナイト10：①8時～22時 ②22時～翌日8時 の2つの時間帯料金に大別（夜間+早朝に家事用の電力が使用できるように便宜を図る）
- 電化上手：①7時～10時と17時～23時 ②10時～17時 ③23時～翌日7時 の3つの時間帯料金に大別（ナイト8の昼の時間帯のピーク時の料金を高くして節電を奨励。売電を意識して高い料金設定。夜間蓄熱式機器をお持ちの方が加入できる）

以上は、契約ごと、また各時間帯の中にも使用電力量別に料金が決められていて大変複雑で、なかなか理解できません。従来の従量電灯料金も含めて参考として表にまとめてみました。

【購入料金体系とライフスタイルによる選択】

太陽光発電や風力発電の余剰電力は、電力会社が買ってくれるのですが、契約により複雑です。上記の売電単価も異

なった電力量別となっています。ナイト8は夜にエネルギー蓄積型。ナイト10は夜中活動型。電化上手は前2者の中間型で、昼間発電する太陽光発電家庭には適しているといえます。

【電灯契約変更の効果】

従来の従量電灯契約のままにしている方はいらっしゃいませんか？ 最初に述べたように契約には3種類あります。各自のライフスタイルに合った契約を選択しましょう。

私は自己の使用電力計画が最適化できる電化上手契約を選択しました。ちなみに、5月に従量電灯+深夜電力から電化上手に直して、基本料金が2,760円から1,200円に、売電単価も約19円から26.5円になり、1カ月で3,036円の節約になりました。

●電灯契約と料金体系 太字：通常期待単価

各契約 (kWh)	基本料金	昼間 7～23時 (円/kWh)	昼間 8～22時 (円/kWh)	朝晩 7～10時 17～23時 (円/kWh)	昼間 10～17時 (円/kWh)	夜間 (円/kWh)	売電(※2) (円/kWh)
ナイト8 最初：90 90～230 230以上	1200 (60kVA)	19.95 <b>26.45</b> 28.70	---	---	---	5.95	28.70 <b>26.45</b> 19.95
ナイト10 最初：80 80～200 200以上	1200 (60kVA)	---	22.20 <b>29.45</b> 31.95	---	---	6.25	31.95 <b>29.45</b> 22.20
電化上手	1200 (60kVA)	---	---	<b>21.55</b> 夏季(※1) 32.20 その他季 26.90	---	5.95	<b>26.45</b>
従量電灯B 最初：120 120～300 300以上	1560 (60A)	15.58 <b>20.67</b> 22.43	---	---	---	---	22.43 <b>20.67</b> 15.58
深夜電力B	1200 (4kW)	---	23～7時のみ	---	---	5.95	---

※1：「夏季」とは、毎年7月1日から9月30日までの期間をいい、「その他季」とは、毎年10月1日から翌年の6月30日までの期間をいいます。  
※2：売電単価は、最初の90kWhに対して28.70円を適用するのではなく、当該月の各家庭の使用電力量に沿って、適用されます。つまり、ある月の使用電力量が250kWh、売電が100kWhであるとき、20kWh分は28.70円/kWhで、残りの80kWhは26.45円/kWhで購入されます。





## こんな会報になったらいいな！ ～創刊号へのメッセージ～

（ 前回みなさんにお届けしました、生まれたばかりの会報「PV-Net News」創刊号へのアンケートが戻ってきています。みなさんの意見や知恵を集めて、より魅力的な会報に育てていきたいですね。その一部を、ご紹介します。）

### Q1. 会報全体の印象

「勉強になった」、「参考になった」という意見をたくさんいただきました。

### Q2. Q1の回答の理由

- よかった点として、以下のような回答がありました。
  - 各地の発電データと太陽光発電所マップがよかった
  - PV健康診断がおもしろい
  - データの取り方がためになる
  - 総会のレビューが参考になった
  - 役員の実績、事務局の活動状況がわかった
- 一方で、以下のような「物足りなかった」という意見もありました。
- 会費の経緯、総会の様子などで、内容が若干堅苦しい
  - 初回のため仕方ないが、今後は会員のいろいろなもっと突っ込んだ話がほしい
  - EPT（エネルギーペイバックタイム）、節電の大切さなどの視点が欠けている
  - 設立総会のパネルディスカッション記事の質問部分が簡単すぎる

### Q3. おもしろかった記事をお書きください

- 上記Q2の回答と重複する内容のほか、以下のような様々な感想、提案がありました。
- 黒川教授の基調講演で全体の動きや PV-Net へ期待されていることがわかった
  - 国産発電所の電力量調査や会員からの投稿ページでみなさんいろいろ勉強されているのを感じました
  - 創刊号にしてはがんばって見栄えよく編集していますね
  - 編集後記をもっと充実させては

### Q4. 読んでみたい記事や載せてほしいコーナーは？

- 故障や掃除
  - トラブル事例とその対応
  - 発電施設のメンテナンスに関する記事
- これらをはじめ、問題への対処とその解決などについて、関心を寄せる声が多く聞かれます。また、発電量を増やす工夫や苦悶の事例研究など、ほかの発電所長はどうしているのだろう、と経験の共有を求めている様子が見えがえす。
- さらに、以下のような、太陽光を取り巻く社会的な情報や基礎知識についてのニーズもあることがわかります。
- 素人でもわかりやすく読める用語の説明・解説コーナー
  - 風力・地熱など、他の自然エネルギーに関する国内外の最新情報
  - 電力契約種別

### Q5. ご自身が会報に載せたい情報、書きたい内容などありますか？

- 電力料金の値上げのご提案（設置費用の回収短期化と電力節減効果などを狙って）
  - 子どもたちのエネルギー問題・環境への取り組み
  - わが家の太陽光発電所について
  - 節電努力
- 以上のようなアイデアが寄せられました。

### Q6. ご意見、ご感想、楽しい誌面になるアイデアなどご自由にどうぞ

- 普通の発電所長の話（バリエーションがあっておもしろ、未設置者の設置意欲がわくなど）
  - 素朴なQ&A
  - 発電データの取得後の活用法
- など、身近な情報を載せてはどうでしょう、との提案がありました。
- よくまとまった内容のある会報になっています。さらによくなることを期待しています
  - などほっと安堵する意見も。
  - また、なるほどどうなってしまったのが以下の提案。
  - 保管のためのファイル用パンチ穴を配慮したレイアウトをぜひ早速改善したいと思います。

6つの質問に対する回答から見えてくるのは、会員のみなさん同士での情報交流のニーズが非常に高いこと。このほか、各地域のPV-Netフォーラムや太陽光発電基礎講座（連続3回）などの様々なシーンで、会員をはじめとする参加者のみなさんから、感想や意見、PV-Netへの期待が寄せられています。

これからますます会員からの投稿ページを増やして、読み手と書き手の声を上手に引き合わせながら会報誌を充実させていきます。みなさんの話も、ぜひ聞かせてください。太陽光発電を実践したり関心を寄せる者同士の経験・情報交流を進めたいきましょう。投稿などを、気軽に事務局までどうぞ。

アンケートに答えてくださったみなさま、協力と楽しくてためになる意見を、いつもありがとうございます。意見を掲載できなかったみなさま、申し訳ありませんでした。ぜひ、今後も会報の印象や感想を、どしどしお寄せください。生まれたばかりの会報ですので、みなさんの意見を参考にしながら、一緒に育てていただけたらうれしいです。

次号では、太陽光発電基礎講座についてのアンケートを紹介します。



## 今月のわが家の発電量は？ ～所長のつぶやき～

毎月、事務局に続々と届く発電量のお知らせFAXが、新しい月の始まりを知らせています。「今月はみなさんの発電所は順調に発電したかな？」スタッフ一同楽しみな瞬間です。月ごとの発電量のお知らせと一緒に事務局に届く、発電所長のみなさんのメッセージをご紹介します。インターネットを使われる方は、ホームページの会員ページからも月ごとの発電量を入力できますので、ぜひ活用ください。



### 7月（7月1日～31日分）

「梅雨のため発電量少ない（静岡県駿東郡長泉町 渡辺道男）」  
 「以前は毎月10日にメーターを読んで家計簿に付けていたので、今回は20日分の発電量になります（埼玉県草加市 小笠原美知子）」  
 「設置3年目頃より発電量が増加しましたが、この頃時々（気づいただけで数回）インバーターがE5、F6などで“00”を表示したあと、復旧時に積算量が10から20kWマイナスになることがありました。2002年4月にメーカー事情によって部品交換があり、そのとき前述の件を報告しましたが、何の処置もとられていません。というわけで、発電量については“疑い”を持っています。チェックの方法があればよいのですが（千葉県流山市 美浦彦彦 ※P.8に関連記事掲載）」  
 「曇り多し、雨多し（静岡県御殿場市 大胡田 和）」  
 「7月分は202kWh、昨年の7月発電量は319kWh、いかに今年の天気が悪かったかがわかる（神奈川県川崎市 鈴木昭男）」



### 8月（8月1日～31日分）

「前略、報告が遅くなりました。雨降りが多かったので農作業に追われ、ついつい今日になりました（山梨県中巨摩郡敷島町 渡辺芳三）」  
 「天候不良のため、昨年の発電量の60%ほどでした（埼玉県大里郡寄居町 吉田栄吉）」



### 9月（9月1日～30日分）

「今年の夏は雨天が多くて発電量少ない（千葉県長生郡長生村 和田 清）」  
 「7月の異常気象ぶりが記録の上にも現われ、特に日照時間の不足が、東北地方の稲作に影響し、開花稔実を不良にしたとメディアが報道、本当に化石燃料の使用を抑える必要の時期が差し迫ったと考えた（東京都品川区 渡辺 孝）」  
 「8月は日照が少なかったが、9月に入って多くなった（東京都羽村市 武田匡弘）」  
 「多忙なため検針日を基準としている（東京都八王子市 斉藤利恵）」  
 「平成15年9月21日の台風15号（伊東半島直撃）、近所では瓦1枚トタン1枚はがれないのに、当方ではパネル12枚が重しと共に飛ばされた。インバーターまたは接続箱（名称不明）まったく表示せず（静岡県伊東市 国分辰夫 ※P.8に関連記事掲載）」



### 10月（10月1日～31日分）

「10月から月単位での測定も出すことにしました（東京都荒川区 渡来美知代）」  
 「南面の発電量：129kW、北面の発電量：65kW（発電容量それぞれ1.5kW）（神奈川県横浜市栄区 日比野拓哉）」  
 「10月にしては意外に“くもり”の日が多い月でした（千葉県山武郡大網白里町 大野英樹）」

### 設置して再確認 「あたたかく見守って、大きく育てていくスタンス」 の大切さ

——— 神奈川県三浦市 熊木昭男

わが家のシステム運用に伴うトラブルと同様なケースがあるのかなと思いつつ、先日お送りいただいた「PV-Net News」を拝見いたしました。

設置して満3年の3kW型のシステムで、発電に伴う電氣的雑音の発生に困惑させられております。

発生源は交流変換用のインバーターユニットで、長波帯から短波帯の低い部分までを被う雑音電波が放射されております。電界強度計やスペクトルアナライザーを所持していませんので定量的な分析はしていませんが、ユニットの周囲数メートルの範囲では、ラジオの標準放送は受診不能です。定年退職を機に、アマチュア無線局を開局しようとしたのですが、この雑音電波による受信障害のため開局を見合わせざるを得ない状態です。

システムメーカーの負担で本年中に改良された低雑音形のインバーターユニットに交換される予定になっておりますが、静止型インバーターの動作原理より雑音の発生がゼロになることは考えられず、交換後にどの程度の改善がみられるのか期待と不安の入り混じった気持ちで工事を待っております。

電化製品の多くがインバーターを内蔵しており、照明器具、エアコン、空気洗浄器、炊飯器など、わが家にもラジオ放送の受信障害を引き起こす器具が多数ありまして、一つひとつの器具の発生する雑音レベルはそれなりに規定された値であるとそれぞれのメーカーは説明していますが、数ミリボルト/メートルの電界強

度の環境で運用されるアマチュア無線局に無視できぬ大きさの妨害電波となっております。

それでも電化製品は任意にオン/オフができますから、それなりの防御が可能です。ソーラー発電所はそうはいきません。FM放送がこれほどまでに普及し、テレビ放送もデジタル化される昨今、中波・短波の振幅変調による放送・通信システムにこだわるのは時代錯誤かもしれないと思いますが、次世代を担うエネルギーシステムが環境を汚染する源となる現実には若干の失望を禁じえません。

当システムを想定して敷地を選び、住居の新築にあわせて設置できたために、屋根の工事費も節約できまして、設置後の一日当たりの平均発電量も9.04kWとそれなりに動いてくれますが、メーカーの宣伝する数字とは大きく異なる償還期間が必要です。このシステムの特徴上、カタログ通りの性能が発揮されることはありえないことは理解していたのですが、設置後にメーカーの技術者と電話であれこれ情報を交換した折に、「気温が高い季節には発電能力が低下するのは常識以前の常識」で「宣伝を信じた顧客はお利口でない」との趣旨の言葉をいただき、いささか落胆しております。家族からは「お父さんの趣味の領域の設備」との厳しい評価を受けております。

しかし、「宇宙船地球号」にとってエネルギー問題が火急の課題であることは明白な事実として、この種のシステムの普及の必要性には疑問の余地はありません。それだけに関係各位、特にメーカーに希望したいことは、「あたたかく見守って大きく育てていくスタンス」を忘れてもらっては困るという一点に尽きます。

貴ネットワークの今後のご発展と事務局スタッフのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

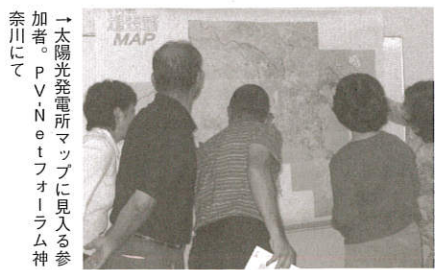
● 神奈川地域 ●

～PV-Net神奈川便り～その2～

第1回フォーラムが、折からの強風と雨の中、会員の約半数の56名の参加により10月13日(月)体育の日に開催されました。当日は、神奈川独自のロゴを入れたネームプレートも準備され、参加者一人ひとりに配布されました。当日回収したアンケートの集計結果では、最も関心の高かったテーマはダントツでPV健康診断で、みなさんが設備の効率や性能を最も気にしていることがよくわかりました。また、故障事例の紹介など、情報の共有化を望む声も多くあり、従来は孤立していた発電所オーナーたちがPV-Netという交流の場を得て、個々の思いを実現させるために考え、発言し、行動しはじめた一日だったのではないかと思います。こうした個々の声を地域としてつなげ、それを関東あるいは全国に届けるための活動を今後も展開していきたいと考えております。

第2回は11月30日(日)に開催する予定で、会員以外の方への参加も呼びかけるため、県や市への後援依頼、マスメディアへの記者会見など、広範囲な宣伝活動を懸命に行っています。(連絡係 野村安子)

※神奈川県から11月18日に、逗子市、藤沢市、横浜市環境保全局から11月25、27日に前後して、フォーラム開催に後援をいただきました。



→太陽光発電所マップに見入る参加者 PV-Netフォーラム神奈川にて

● 茨城地域 ●

～第2回フォーラムを終えて～

水戸市民会館で第1回フォーラムを9月14日に開催いたしました。準備や広報不足で思ったほど人を集められず、参加者が16名という不本意な状況でした。

第2回フォーラムは11月8日に同じ会場で開催しました。一般の市民へPR

する必要性から、県庁の広報広聴課に報道関係へのPRをお願いしましたが、衆議院選挙の前日ということでマスコミにはほとんど取り扱われませんでした。しかし事務局での広報努力などにより26名の参加者があり、まあまあ集まりでした。基礎講座で好評だった外谷氏に講演をお願いしましたが、スケジュールが合わず残念でした。しかし、みなさんが自分の発電所の現況を詳しく紹介し、問題点を発表して討議をするという地方組織としての基本的姿勢が共感を得て、当日は大いに盛り上がりました。その中からユニークな発表を選び、12月20日の大会に発表してもらうことになりました。(連絡係 浅野和俊)

● 千葉地域 ●

～後援依頼要請のため県庁訪問へ～

世話人会の立ち上げが遅れましたが、第1回フォーラム(10月19日)が無事終了し、第2回(11月16日)に向けて準備を進めています。第1回フォーラムでは全員自己紹介することができ、予定されたプログラムもすべて消化することができました。地域会員同士の情報交換にはメーリングリストの活用、メール環境がない会員の方々にはFAXを利用していくことが確認されました。千葉県の発電所マップの大きさは模造紙でゆうに4枚、海岸線(海)も見えてインパクトがあります。懇親会后、新たに2人の方に世話人として参加いただけることになり、世話人の態勢も徐々に整ってきました。各委員会の担当を2人置くことを目標に、さらに世話人募集を続けていきます。

今後の会員獲得や、フォーラムにより多くの参加者を募るため、11月に県庁を訪問し、県に後援依頼要請を行ったり、記者クラブへの働き掛けも予定しています。(連絡係 宮下朝光)

※千葉県の後援が、11月12日にとれました。

● 埼玉地域 ●

～世話人も張り切っています～

9月28日(日)に第1回フォーラムを埼玉新副都心 With Youさいたまで30名の方に参加いただき開催しました。

第2回を11月24日開催で準備を進める中、プログラムの多彩化の一環として、会員のアンケートの希望項目のひとつである行政当局との関係について、会員のみならずと認識を共有しようと、全国の自治体の中でも、いち早く太陽光発電所設置に対し補助を実施した、川越市の環境政策行政を取り上げ、環境部環境政策課主管島田友氏に講演を依頼し快諾をいただきました。第2回フォーラムを、これからの地域活動の進め方について、参加いただいたみなさまのご意見をベースに、会員拡大策や埼玉カラーの方向性を考える場にするため、世話人も張り切っています。(連絡係 樽谷 勇)



→地域の活動について活発に意見を交換 PV-Netフォーラム埼玉にて

● 群馬地域 ●

～第2回フォーラムに向けて～

10月26日に青少年会館にて第1回フォーラムが無事終了しました。少ない人数と短い期間での準備でしたが、いろいろなアイデアが飛び交い、楽しい打ち合わせとなりました。特に、みんなで模造紙に群馬の地図を張り合わせているときなどは学生の頃を思い出してしまいました。自己紹介を交えながら今後の可能性や問題を活発に論議することができ、また、その場で会員になっていただいた方もおり、世話人一同喜んでおります。

現在、第2回に向けて準備をはじめました。目玉として、今話題になっているPVタウン太田市の市長に講演をお願いできるよう、コンタクトを取りはじめました。フォーラム自体も楽しいと思いますが、その後の懇親会ではさらに活発な議論が飛び交い、みなさん生き生きと楽しい時間となっていますので懇親会だけでも参加してもらいたいぐらいです。第2回フォーラムでは、

より有意義な話ができるよう頑張りますので、気軽な気持ちで遊びに来てください。(連絡係 下舞 圭)

● 栃木地域 ●

～交流会の活動近況～

栃木では、地域組織づくりや第2回フォーラム、栃木県環境ネットワーク「とちの環県民会議」参画についてなど、様々な話題を、月1回の世話人会で話し合っています。第2回フォーラムを11月23日に実施したあと、来年2月頃に日帰り温泉施設を利用した第3回フォーラム&発電所見学ツアーを企画中です。また、栃木地域会員専用ホームページや掲示板を活用し、タイムリーな会員間コミュニケーションを実現する一方で、インターネット環境の整っていない会員への情報提供のために、月1回A4サイズの情報リーフレット「PV-Net 栃木瓦版」を発行、配布しています。

このほか、会員拡大のダイレクトメールに地域交流会活動案内やフォーラムのプログラム紹介を同封して発送したり、11月初めに宇都宮で開催された太陽光発電関連シンポジウムに世話人が参加して、会場でリーフレット配布を行うなど、会員拡大に向けた活動も積極的に展開しています。(連絡係 納富信也)

● 東京地域 ●

～地域交流会のめざすもの～

東京地域の世話人会では「顔の見える交流、情報交換」を中心に、会員が「この会に入ってよかった」と思えるようにすることをめざすことで意見が一致しています。この方針に基づき10月4日に第1回フォーラムを開催しました。

当日は事務局を含め45名が参加して前記の方針を提案し、参加者の賛同を得ることができました。また、世話人による「わが家のPV」(事例発表)は参加者からの反響が大きく、地域交流会の活動の重要性を再認識することができました。同時に地域の交流を深めるために用意した、東京の地図上に参加者の発電所をマーキングするというイベ

ントは、懇親会時に予想以上の盛り上がりを見せ、会員相互の距離が近くなったことが感じられとても成功でした(ほかの地域もよかったでしょ?)。今後はこの輪を広げ、より多くの発電所長さんたちと顔の見える交流をめざし、第3回、第4回……とフォーラムを継続していきたいです。(連絡係 高柳良大)

● 静岡地域 ●

～第2回フォーラムへ向けての取り組み～

9月21日に行われた第1回フォーラムは、台風15号と重なり、世話人会を少し上回る程度の参加者にとどまってしまうしました。しかしながら内容は「PV健康診断」や「ユニーク発電所事例発表」などで大いに盛り上がり、参加者を満足させるものであったと思います。私自身もPV健康診断をしてもらい、結果はまあまあでしたが、南向きとばかり思っていた方位が南西38度も傾いているなど、認識を改めたこともありました。

第2回フォーラムは12月7日(日)に決まりましたが、第1回の反省に立ち、参加者を増やすために、全国紙・地方紙への掲載やリーフレットの活用など、会員拡大ともつながる参加者を組織化するための取り組みが始まっております。私の家庭訪問も34軒になりました。リーフレットのポストインだけでなく、なるべく玄関インに努めるようにし、20軒で対話しましたが、引

き続き根気よくこの取り組みを強めたいと思います。今度はアルコールつきの懇親会会場も設定しましたので大勢の方の参加を期待しております。(普及広報担当 田中東紀男)

※田中さん、山下さん(下記参照)がリーフレットを配布された方の中で、すでに5名の方が会員になりました。

● 山梨地域 ●

～少人数ながらも充実した内容で、広がれ、会員の輪～

10月21日に第1回フォーラムを甲府市の県立美術館向かいの有機村イベントスペースで実施しました。参加者は事務局を含め14名と少人数でしたが、出席者からは活発な意見や発言があり、充実した内容となりました。PV健康診断では、月によっては35%も上回っているという驚異的な結果が報告され、また事例発表では、留守中昼間の消費電力計測結果が発表されました。その後、計測方法や独自の取り組み方、寒冷地での対策など、それぞれの体験談を聞くことができ、太陽光発電やパネルに関する新しい認識を得ることができました。

12月14日開催予定の第2回フォーラムに向けてリーフレット配布活動も本格的になり、会員拡大に向けた活動が展開されています。(連絡係 芦澤泰徳)



→参加者同士で自己紹介 PV-Netフォーラム山梨にて

リーフレットの配布体験記

—— 山下正道 (静岡県富士市)

飼い犬を連れていつも何気なく歩いている近所の散歩道で、1軒、2軒、3軒と、太陽光システム設置の家が結構あることに気づきました。最初は気楽にリーフレットを郵便受けに投函するだけでしたが、後日改めて訪問してみると案外反応がいいことがわかりました。ただ、リーフレットを配るだけだとそのまま捨てられることもありました。

そこで「太陽光発電所ネットワーク地域交流会からのお知らせ」のチラシと専用の「名刺」を作成して本格的に訪問を開始しました。訪問が10軒を超えた頃、事務局から新入会申込があった旨のメールが届き、勇気百倍やる気満々でついに訪問が30軒を数えるに至った次第です。

その後、行動範囲も広がり、ドライブのと

きもバスや電車に乗っているときも「南向きの屋根」が気になり、次の訪問を楽しみにしている昨今です。

「ポストイン」で仲間を増やそう

PV-Netの存在と活動内容を伝えるリーフレットを活用し、設置者自身の手で発電所長同士の輪を広げる「ポストイン」が始まっています。仲間が増えると、発電量の「近隣比較」からシステム異常が早期発見しやすくなるほか、会員の実績(会員数、データの蓄積)は、会としてのトラブル対応や保険制度の構築など、太陽光発電が設置者主体にシフトしていくための最も大きな力になります。

あなたも「ポストイン」でご近所の発電所長とお話ししてみませんか? ポストイン先の名前、住所をぜひお知らせください。PV-Netからの情報などを送り、会の存在を知ってもらいながら、太陽光発電所マップも充実させていきます。

リーフレットを送付しますので、気軽に事務局までお問い合わせください(※個人データの保護には細心の注意を払っています)。



第1回理事会

●日時：6月5日(木) 18時～20時50分  
 ●場所：太陽光発電所ネットワーク事務所  
 ●参加者：理事12名、評議員1名、事務局4名  
 設立総会の検証と議論の整理をし、規約改正方針や会の基盤づくりを、会員と一緒にどのように進めるかを話し合いました。年間予定は8月から秋にかけて各地で地域交流会づくりのイベントを、12月に全体イベントを行うことを決めました。

第2回理事会

●日時：7月3日(木) 18時～21時  
 ●場所：太陽光発電所ネットワーク事務所  
 ●参加者：理事12名、監事1名、評議員2名、事務局4名  
 動きはじめた各委員会の活動報告がなされました。発電量の記録日を再検討し、相談員養成講座は初年度は「基礎講座」とすることにしました。今年度の予定は、12月20日の全体イベントに向け、地域の様々な取り組みを連係させ、集大成させていくべく活動を行っていくことが提案され、承認されました。

臨時理事会

●日時：8月7日(木) 18時～21時  
 ●場所：太陽光発電所ネットワーク事務所  
 ●参加者：理事12名、監事1名、評議員1名、事務局5名  
 事務局から「データ分析ワーキンググループ」の設置が提案され、承認されました。各委員会から予算見直しに向けた予算案と委員会報告を受けました。特に交流活動委員会から基礎講座の内容が、普及広報委員会から会報創刊号の目次が、機器情報委員会から今年度計画が提案され、それぞれ承認されました。

第3回理事会

●日時：9月4日(木) 18時～20時半

●場所：小石川後楽園内涵徳亭(飯田橋)  
 ●参加者：理事12名、監事1名、評議員2名、各地の世話人(連絡係)5名、事務局4名

各地域の世話人が初めてオブザーブ参加した理事会となりました。各委員会の活動報告のうち、交流活動委員会の報告として、各地域の世話人によって、世話人会での議論やフォーラム準備の様子などが紹介されました。機器情報委員会からは、今年度は特に機器トラブルを重点的に調査することが提案されました。

議題として、予算見直し、四半期の執行確認、旅費・交通費規定について審議されました。特に予算については事業費の枠内での見直しについて提案され、それぞれ承認されました。

第4回理事会

●日時：11月6日(木) 18時～21時  
 ●場所：シニアワーク東京(水道橋)  
 ●参加者：理事11名、監事1名、評議員1名、各地の世話人(連絡係)5名、事務局5名

活発化してきた各地の活動状況を受けた理事会となりました。各委員会の報告や提案の後、主な議題である規約改正の方針、各委員会の委員の拡充などについて話し合われました。

規約については、改正素案に対してさらに意見募集するハードな予定を考慮し、今年度は優先項目を改正し、残り来年度に慎重に審議するという提案がなされ、承認されました。

また今後は各地域世話人から選出されたメンバーが委員となることが提案され、承認されました。ロゴマークの提案は、慎重を期するため、来年度に選定のプロセスと使用の用途を具体化することとしました。



→理事会の様子。9月から各地域の世話人がオブザーブ参加

企画調査委員会

立ち上がったばかりのPV-Netが未永く安定した活動を展開していくために、今年は「活動基盤整備」の重要な年です。各委員会ではその組織固めのための活動をそれぞれの分野で進めていますが、企画調査委員会ではPV-Net全体を長期的な視野から見据えて、健全な成長を見守り、促すような役割を担っています。

6月17日第1回打合せでの太陽光発電基礎講座の企画からはじまり、11月20日までに全6回の会合を重ね、第4回の会合では、二つのワーキンググループ(WGI:組織点検WG、WGII:基礎調査WG)が具体的な作業を進めるために立ち上げられました。WGIでは、次期総会に向けて、今年の活動状況の点検と見直しを進めています。WGIIでは、(1)太陽光発電に関する制度・技術情報の基礎調査と情報提供、(2)太陽光発電システムの販売および流通の課題を明らかにする基礎調査、に取り組むことが決まりました。

この両基礎調査では、太陽光発電や自然エネルギーを取り巻く広い視野からの基本情報、会員の方に役立つ情報、太陽光発電に関心を寄せるみなさんにとって役立つ情報を、バランスよく提供していくための準備を進めています。これまで手に入りにくかったり把握されていなかった重要な情報を整理し、既設置者と未来の設置者がお互いに「必要な情報を得やすくする」という課題について、まず今年度は、ホームページ上の「太陽光発電基礎資料室(仮称)」の作成と、購入者(消費者)の立場から見た太陽光発電システムの販売および流通の仕組みの現状把握をしていきます。

この基礎調査は、会員のみなさんをはじめとする設置者の方々が貴重な体験者であり、自らの太陽光発電システムの購入や設置の経緯や問題点について詳しく知っている方々です。このことについて、お話をうかがう機会があるかもしれませんが、ぜひご協力ください(※)。

※これらの調査活動は、各種委員会と連携して進めています。

機器情報委員会

これまで設置者個人の把握する太陽光発電の情報は、メーカーが示したものと個人的に集めたものだけで、一部の研究者あるいは研究機関以外ではなかなか情報公開・情報交換されることがありませんでした。設置者としては、設置後の満足感とともに、経年変化やメンテナンス、トラブルの対応、保険などに関する不安を持つ方もいることでしょう。

機器情報委員会の役割は、そんな設置者の不安を取り除くとともに、新規設置者も安心して設置できるよう、システムの情報を提供していくことと考えています。委員会では、会員が設置者であるという強みを生かし、問題点を解決していく力としていきます。

しかし、会全体としての設置状況は皆目わかりません。初年度は基礎づくりでもあり、会員全体の情報を収集しデータベースにするために、基本的情報をみなさんに提供していただきたいと、会報創刊号に「太陽光発電システムの設置概要——PVカルテ(※※)」(メーカー、設置容量、設置方角、設置角度、年間発電量、トラブルなどを記入)を同封し、ご協力をお願いしました。同時に、メーカー各社との話し合いを進め、情報公開のお願いとともにアンケートも実施しています。

今年度は特にトラブルに関して、これまで起きたこと、これから起きた場合の対処方法をお聞きし、会員へはもちろん、新規設置者にとっても有効な情報提供ができるようにまとめていきたいと考えています。

※※PVカルテ未提出の方は遅れても構いませんので提出にご協力ください。会員の方、必須です。

総務財政委員会

総務財政委員会は、表立った活動を進めていくというよりは、会員の活動

環境を整備することを主な役割としています。いわば、縁の下の力持ち的な、地味な委員会といえます。

予算執行の全体動向を把握し、計画が円滑に立てられるよう、定期的に理事会に報告することが役割です。場合によっては、予算修正案を作成し、理事会に提案することもあります。

また、会の活動が円滑に行われるための総務、財政に関する様々なルールの整備も使命のひとつです。一度にはできないので、委員会では優先順位をつけて、少しずつ素案づくりをしています。

地域の活動が活発になるにつれて、地域を経済的な面から支援することも大事な仕事になっていきます。そこで、地域の会計担当の方に当委員会のメンバーに加わっていただき、今後どのような仕組みをつくったら、PVネット全体と地域の活動がうまく連携しながら発展していけるかを一緒に考えていきます。

普及広報委員会

まずは最優先すべき仕事として、私たちの会を広く紹介するためのリーフレットづくりに取り組み、次いで会報「PV-Net News」の創刊号をつくりました。理事会で要請された厳しいスケジュールを守って、なんとか印刷にこぎ着けることができましたが、いずれもまだまだ試作品です。会員のみなさんの意見や知恵を集めて、より良い会報に育てていくことをめざしています。

当委員会は、設立総会以降、これまでに4回の会合を重ねました。特に、第2回の会合からは、地域の世話人の中から、広報活動に参加することになったメンバーが出席しています。広報などが、地域の会員のニーズに応えて行われること、そして、委員会の活動がいよいよ活発になることなどを考えれば、委員会の強化がぜひとも必要です。このため、去る11月6日に行われた第4回理事会で、普及広報委員会の委員が拡充されました。この新しい強力な陣容で、ますますきめ細かな広

報活動、そして、社会に対して太陽光エネルギーの活用を訴えかける活動を、それぞれ強力で展開していこうと考えています。

交流活動委員会

各地域の交流活動全体の様子をお知らせしますと、きっかけは理事会や事務局の呼びかけに応じた形でしたが、8月から始まった第1回PV-Netフォーラムを終えた頃には、積極的な世話人により、各地で世話人会の連絡方法やフォーラムの運営、組織も順次整備されて機能するようになってきました。

全体的な組織の細かい名称も統一されて、他の地域のコピーではなく、それぞれの地方の立地や特徴を生かした活発な自主活動の展開が、今後おいに期待されます。

2回目のフォーラムは会員だけでなく、設置を考えている方、興味をもたれた方も参加の対象に、幅広い太陽光発電の実践と普及のイベントを想定しています。各地域は同じ目的を持ちながらも、それぞれに特色あるプログラムが用意されています。

今年度は12月に各地の総まとめの発表会(P.2に詳細)と、年明けには各地域主催の見学会など盛りだくさんの企画を予定しています。当委員会の目的の中で、今年度は特に、各地域の交流会活動の立ち上げと運営体制の整備が動いています。なにより今年度の第一の目的は基礎固めであることを念頭において活動していきます。交流活動ご担当の各地のみなさま、それぞれ忙しい仕事の合間を使って協力いただき深く感謝します。



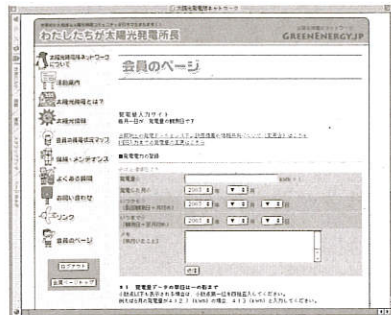
↑9月13日に開催された普及広報・総務財政・交流活動・企画調査の各委員会、およびデータ分析WGの様子

みなさんに支えられて、PV-Netはいよいよ本格的な活動を始めました。これまで各地で開催されたPV-Netフォーラムの集大成となる太陽光発電所長大集合イベント「輝け！ 太陽光発電所長 ～日本の未来は我らが変わる～（仮称）」（本誌P.2に詳細）のほか、春先に向けては、外へ飛び出して、各地域の特色あふれる発電所見学会を開催するなど、会員のみなさんに楽しんでいただけるイベントを企画。ご参加を心よりお待ちしております！

**毎月1日は「観測の日」**—— 毎月の発電量をお知らせください！

前号でもお知らせしましたが、PV-Netでは、会員のみなさんの毎月の発電量の登録を行っています。記録を続けることで、日頃の発電状況だけでなく発電量の経年変化もわかり、いざ、トラブルが発生したときの重要な基礎データとなります。また、PV-Netに蓄積されたみなさんの発電データ、機器カルテの基礎データが、政策提言や社会への働きかけの力強い裏打ちとなります。

ホームページの会員のページまたは記録用紙を使って、PVカルテの記入と提出、月々の発電量の登録にご協力ください。



↑会員専用の発電量入力サイト

**ご寄付、ありがとうございます！**

東京都国分寺市の番場祥充さん、東京都江東区の杉本尊義さんから、ご寄付をいただきました。どうもありがとうございました！ 大切に、活動に活かしていきます。これからもこの会の成長を見守り、活動へご参加ください。

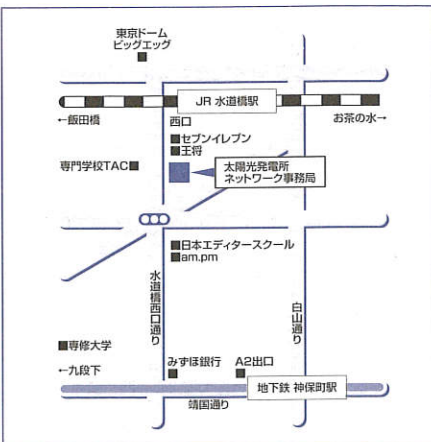
【おわびと訂正】 創刊号に関して下記の通り訂正し、おわびいたします。  
P.3 誤) 原始力 → 正) 元始力 P.15 誤) 茨木 → 正) 茨城、誤) 5 (土) → 正) 5 (日)

編集後記

- ◆ 12/20までは息もつけない過密日程の中、各地のみなさんの息吹きを2号誌に盛り込み伝えようとガンバリました。年末正月は骨休み。(T)
- ♣ 冬を控え脂肪はため込んでいるものの会報の締切りと手直しに追われ冬眠できず……。いつになったら穴にもぐれるのやら。(いと)

- ◆ 信州の田舎で育ったので、森や田んぼを見るとうれしくなります。太陽の下のおんびり農村生活こそ持続可能では？(も)
- ♥ 「輝いている」フォーラムで会員のみなさんと会うとそう感じる。自分もみなさんに負けないように輝いているだろうか。(す)
- ★もういくつねると…♪ (て)

Editor's Notes



**太陽光発電所ネットワーク**  
(略称: PV-Net)  
〒101-0061 千代田区三崎町2-15-5  
三崎町SSビル6階  
〈交通のご案内〉  
① JR水道橋駅西口から徒歩2分  
② 営団・都営地下鉄  
神保町駅A2出口から徒歩10分  
TEL 03-3221-3370  
FAX 03-3221-3380  
URL: www.greenenergy.jp  
E-mail: info@greenenergy.jp

<8月>

31日 第1回PV-Netフォーラム栃木開催

<9月>

- 3日 大野郎 (東京:正会員) トラブル調査
- 4日 第3回理事会
- 6日 茨城地域ネットワークづくり 第1回打合せ
- 7日 千葉地域ネットワークづくり 第1回打合せ
- 7日 埼玉地域ネットワークづくり 第3回打合せ
- 8日 神奈川地域ネットワークづくり 第3回打合せ
- 10日 山梨地域ネットワークづくり 第2回打合せ
- 12日 東京地域ネットワークづくり 第3回打合せ
- 13日 太陽光発電 (PV) 基礎講座 第1回開催
- 14日 第1回PV-Netフォーラム茨城開催
- 15日 市民共同発電所全国フォーラムへ参加 (彦根)
- 19日 データ分析WGを開催
- 20日 埼玉地域ネットワークづくり 第4回打合せ
- 20日 静岡地域ネットワークづくり 第3回打合せ
- 21日 第1回PV-Netフォーラム静岡開催
- 23日 群馬地域ネットワークづくり 第1回打合せ
- 24日 千葉地域ネットワークづくり 第2回打合せ
- 25日 神奈川地域ネットワークづくり 第4回打合せ
- 28日 第1回PV-Netフォーラム埼玉開催
- 28日 栃木地域ネットワークづくり 第2回打合せ
- 30日 東京地域ネットワークづくり 第4回打合せ

<10月>

- 1日 第4回企画調査委員会開催
- 4日 第1回PV-Netフォーラム東京開催
- 4日 千葉地域ネットワークづくり 第3回打合せ
- 5日 太陽光発電基礎講座 第2回開催
- 5日 機器情報・普及広報・交流活動の各委員会、データ分析WG開催
- 8日 神奈川地域ネットワークづくり 第5回打合せ
- 11日 群馬地域ネットワークづくり 第2回打合せ
- 11日 埼玉地域世話人会打合せ
- 13日 第1回PV-Netフォーラム神奈川開催
- 14日 PV健康診断用ツール (シミュレーションソフト) 導入
- 16日 各地域の世話人とのミーティング
- 17日 国分邸 (正会員・静岡) トラブル対応
- 18日 埼玉地域世話人会打合せ
- 18日 高柳邸 (正会員・東京) トラブル調査に立会
- 19日 第1回PV-Netフォーラム千葉開催
- 21日 第1回PV-Netフォーラム山梨開催
- 22日 東京地域世話人会打合せ
- 22日 太陽光発電所マップ (ホームページ用) 完成
- 24日 神奈川地域世話人会打合せ
- 25日 静岡地域世話人会打合せ
- 25日 栃木地域世話人会打合せ
- 26日 第1回PV-Netフォーラム群馬開催
- 27日 第5回企画調査委員会開催
- 29日 規約WGを開催
- 29日 有志一同で、第2回PV-Netフォーラム案内をPV-Netに関心を寄せる未会員の方宛に発送 (~11/4の4日間)
- 30日 第3回総務財政委員会開催
- 30日 国分邸 (正会員・静岡) にてトラブル対応 (~10/31)
- 31日 千葉地域世話人会打合せ

<11月>

- 1日 群馬地域世話人会打合せ
- 5日 データ分析WG・第5回普及広報委員会開催
- 5日 「PV健康診断用ツール (ソフト)」をリニューアル
- 6日 第4回理事会開催
- 7日 東京地域世話人会打合せ
- 8日 第2回PV-Netフォーラム茨城開催
- 11日 神奈川地域世話人会打合せ
- 12日 神奈川県庁記者クラブで記者会見 (PV-Netフォーラム神奈川)
- 14日 千葉県庁記者クラブで記者会見 (PV-Netフォーラム千葉)
- 14日 千葉地域世話人会打合せ
- 15日 埼玉地域世話人会打合せ
- 16日 第2回PV-Netフォーラム千葉開催
- 17日 東京地域世話人会打合せ
- 18日 山梨地域世話人会打合せ
- 20日 第6回企画調査委員会・第2回メーカー打合せを開催
- 22日 第2回PV-Netフォーラム東京開催
- 23日 第2回PV-Netフォーラム栃木開催
- 24日 静岡地域世話人会打合せ
- 24日 第2回PV-Netフォーラム埼玉開催
- 25日 神奈川地域世話人会打合せ
- 28日 茨城地域世話人会打合せ
- 30日 第2回PV-Netフォーラム神奈川開催

<12月>

- 6日 太陽光発電基礎講座 第3回開催
- 7日 第2回PV-Netフォーラム静岡開催
- 10日 太陽光発電基礎講座 第1回補講開催
- 13日 第2回PV-Netフォーラム群馬開催
- 14日 第2回PV-Netフォーラム山梨開催